

1. 思いや願い

生活科は、直接体験を重視し、主体的に活動することを通して子供の自立を促す教科です。子供の発想を生かし、子供に寄り添って学習を進めていくのです。

ですから、具体的な活動においては、「きっと～ができるよ」「こうしたらきっと～になるよ」「～してみたい」といった子供の『思いや願い』を大切にします。

そして、生活科の学習では、この『思いや願い』の実現に向けて、子供が積極的に対象にかかわっていき、実現した時の満足感や成就感をもたせること、ひいてはやる気や自信をもたせることをねらっています。

思いや願いとは

『思いや願い』は、広辞苑によれば、

『思い』…思う心の働き・内容・状態。その対象について、これこれだ、こうだ、こうなるだろうと、心を働かせること。

『願い』…願うこと。願望。

とある。

生活科で使われる『思いや願い』は、「おもしろそう」「やってみたい」といった、子供が対象と出会った時に抱く驚きや発見を含めたものから、「わたしは～したい」「～になってほしい」「～したら～になるだろう」といった見通しをもったものまで捉えている。つまり、『思いや願い』は、見たり、聞いたり、触れたりするといった具体的な活動の中で漠然と抱くものから、実現までの方法まで考えた自分のしっかりととした意志があるものまで幅の広いものを含んでいる。

実践から

ザリガニの飼育を考えてみます。ザリガニに出会った時、「わあーこわい」「ハサミは大きいな」「自分でも育ててみたい」「どうやったら育てられるかな」と次々と『思いや願い』が沸いてきます。そして、「ぜひこうしたい」といった強い『思いや願い』にまで高まっていくのです。生活科の学習では、このように漠然とした『思いや願い』が具体的な活動を通してしだいに高まり、実現していくようにさせることが大切です。